

令和 4 年度 県立東海高等学校自己評価表

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、教職員、家庭、地域が連携し、地域社会から愛される学校。 ・一人一人の自主性、自立性（自律性）を育むとともに、明るく誠実で、知性豊かな、心身ともに健康な生徒を育成する学校 		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>【昨年度の成果】・基礎学力の向上として、「数学」正答率 4 割以上が 23%から 47%に上昇。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語表現、数学 I A での少人数授業実施の結果、2 教科とも原級留置の生徒 0。 ・各定期考査の課題提出を促し、各教科、未提出者 10%以内の目標は達成。 ・キャリアパスポートを活用することで、「人生設計の動機付けとなった」「働く意味を考えるきっかけとなった」「教員が生徒の記述から生徒の考えや希望を把握でき、生徒は教員のコメントにより振り返る指導」ができた。 ・インターンシップ参加者は 5 名、幼稚園・認定こども園での実習は 3 3 名、看護出前授業に 2 6 名が参加。 ・進路ガイダンスや上級学校見学会により、進路意識を醸成することができた。 ・合同あいさつ運動は年 8 回計画したが実施できたのは 2 回。参加生徒約 30 名。 ・ジャズバンド部の地域貢献活動参加 3 回。 JRC 部地域ボランティア参加 1 回 ・2 年生全員が「いばたん」探究活動の作品応募 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わかる」授業の展開、ICT の利活用 ・自ら学ぼうとする態度の確立 ・1 学年次からのキャリア教育の充実と計画的な指導体制（進路未決定者をなくす） ・キャリアパスポートの効果的な運用方法の研究 ・インターンシップの受け入れ先の拡充 ・コロナ渦における交流イベントの縮小・中止 	<p>学び直しと観点別学習状況の評価を生かした学習指導を行い、ICT 等を活用しながら個々の学力向上に努める。</p>	<p>①年間指導計画表を活用して、組織的・計画的な学習指導を推進する。</p> <p>②ICT 等の活用を含めて指導方法の工夫・改善を努め、基礎的・基本的な知識の定着を図る。</p> <p>③個々の学習課題を提示することにより、学習目標を明確にさせ、生徒の意欲を喚起する学習指導を行い、学力の向上を図る。</p>	A
	<p>多様な個々の進路希望にむけ、指導体制を確立し指導の充実を図る。</p>	<p>④生徒の進路情報収集に関する不安解消に努め、進路実現のため必要な情報提供を目指す</p> <p>⑤就業体験（インターンシップ）や幼稚園体験実習、1 日看護体験等をとおして、自立心や職業観を育成し、キャリア教育の充実を図る。</p> <p>⑥進学、就職のための学習指導の充実を目指す。</p>	A
	<p>基本的生活習慣の確立を図り、社会に通用する自主的・自立的（自律的）な態度の育成に努める。</p>	<p>⑦家庭・地域との連携を密にし、相互の信頼・協力を基に、生徒の健全な育成に努める</p> <p>⑧服装、頭髪、公衆道徳等の指導を通して、規律ある明るい学校生活を確立するとともに、全職員が共通理解のもと一貫した生活指導を行う。</p> <p>⑨道徳の授業を充実させ、健全な心の育成を図る</p> <p>⑩情報モラル・公共マナーの指導等をとおして、社会性を育成する。</p>	B
	<p>生徒会活動・部活動を奨励し、スポーツ・文化・芸術を親しむ態度と達成感や連帯感の育成に努める。</p>	<p>⑪自主的・主体的な生徒会活動・部活動の活性化をとおして、集団の一員としての自覚を促し、他と協調できる豊かな人間性を育成する。</p> <p>⑫部活動の 3 年間継続を目標とさせ、技術・体力の向上を図り、心身ともに健全な生徒の育成に努める。</p> <p>⑬ボランティア、体験活動、地域の行事への積極的な参加を促し、奉仕の精神、自立への精神を育成する。</p> <p>⑭キャリアパスポートを活用し、学校行事、部活動などでの様々な体験や学びを通して、人間関係形成、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力の伸長を図る。</p>	A
	<p>地域と連携し、信頼される魅力ある学校づくりに努める。</p>	<p>⑮地域の行事等に積極的に参加するなど、地域との連携を深める。</p> <p>⑯広報活動を充実し、新聞社への投げ込み等積極的に学校の活動状況を発信する。</p>	A
	<p>働き方改革を進め、教育活動の精選と充実を図る。</p>	<p>⑰校務の適正な分担を図り、各自週 1 日以上以上の定時退勤日を設ける。</p> <p>⑱ICT 等を活用することで教材の共有化や精選・充実を図り、教員と生徒が向き合う時間を確保する。</p>	A

別紙様式2 (高)

三つの方針		具体的目標			
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) 地域を支える核となって活躍する、社会に貢献できる人財の育成			
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) 生徒一人一人の幅広いニーズに対応した教育課程による、就職から進学までの進路希望実現。			
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) 自己実現・進路目標実現を目指し、日々努力する生徒の受け入れ			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教科指導	生徒一人一人の基礎的・基本的な学力の向上と成績上位層の一層の育成強化	ICT等の活用を含めて授業内容・家庭学習の定着化を図るための指導を工夫、強化する。 ②③	B	A	・Google クラウドで授業の補助教材や連絡事項の配信をする職員が増えている。スタディサプリの課題配信も同様である。しかし、個々の職員のスキルに頼るところが多く、今後も校内研修や情報提供を継続していきたい。 ・観点別学習評価の本格実施初年度ということで、各教科ともそれを意識した指導計画の作成に取り組むことができた。継続した見直し、改善を心がけていきたい。
		年間指導計画表を有効に活用し計画的な学習指導を推進する。 ①	A		
		公開授業・授業観察等を行い、授業の評価と工夫改善を図る。 ①③	A		
		少人数授業(数学・英語)の展開により基礎・基本の理解及び成績上位層の育成と強化を図る。②	A		
	生徒一人一人の学習意欲を喚起と自主的な学習態度の育成	成績不振者に対して学び直しの学習指導や課外を実施する。 ②③	A		
		各種資格、検定試験等を積極的に推奨し、学習意欲の高揚を図る。 ③	A		
教	国語	基礎学力の向上	漢字テキストを活用し、学び直しをさせ、漢字能力を高める。 全学年統一問題の小テストを行う。 ②	A	B ・継続的な漢字学習の習慣づけ、小テストの評価方法の改善。 ・各教材における言語活動の充実化。 ・ICT活用についての積極的な研修。
			教科書準拠ノートやワークシート等を課題とし、家庭学習の習慣をつける。 ②③	B	
		自己表現力の育成	進路実現に向けて、文章力や語彙力を身に付けさせ、表現力の育成を図る。 ②⑥	B	
	言語活動を通して、自分の考えを筋道立てて文章にまとめたり、発表したりする能力を身に付けさせる。 ④⑥		B		
	わかりやすい授業の工夫	テストや提出物を適切に評価し、指導の改善に努める。 ①③	A		
		ICT等の活用や授業形態の工夫に努め、生徒の意欲・関心を高める。 ①③	B		
地歴公民	基礎的・基本的学力の定着	生徒の実態に合わせて学習内容を精選する。 ①	A	B ・学習意欲を高めるための教材の精選及び学習習慣の確立	
		定期考査等の結果をもとに生徒の学習到達度を把握し、授業改善に努めることで生徒の学力や学習意欲を高める。 ②③	B		
	わかりやすい授業の展開	副教材やプリント、ICTなどを活用した授業を展開する。 ①	A		B ・実態に応じたさらなるICT利用の活用・研究。
		グループワークなどの言語活動を通して、思考力・判断力・表現力の育成に努める。 ③	B		
		単元目標を明確にし、十分な教材研究を行う。 ①	B		

別紙様式 2 (高)

数 学	基礎・基本の定着	少人数授業を実施し机間支援の機会を増やす。(毎授業、各生徒に1回の声かけ) ②③	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ICTを利用した授業展開としてmeetやforms、カフト等を行ったが、実際に数学の力が向上したのかは検証が必要。 3年生I類生徒の進路が決定した後の授業に対する意欲低下 看護医療系の対策
		年7回(定期考査毎)の課題を課す事で学び直しを促し、学習習慣を身につけさせる。 ②③	A		
		生徒同士の話し合いや確認の時間(毎授業2、3分程度)を設け、主体的な学びを通し、基礎・基本の定着と知識の深化を図る。 ②③	B		
	わかりやすい授業の実践	机間支援を通し生徒のつまづきを発見し的確な課題設定を図る。 ①③	B		
		教員同士の打合せを密にし、授業進度や教授内容の統一を図る。 ①③	A		
お互いの授業見学(月1回目標)を通し、ICT等の活用を含めて授業の質の向上に努める。 ①③	B				
理 科	基礎学力の向上	定期的なノート点検や机間支援、ICT等の活用を通して、生徒の取り組み状況やつまづき状況を確認し、必要に応じて学び直しの学習指導を行うことで、基礎学力の向上を図る。 ②	A	B	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点に立った上で、より充実した実験・観察や言語活動の実施方法について検討が必要である。
		生徒同士の話し合いやグループワークなどの言語活動を通して、知識の定着や原理・法則の理解を図る。また、ワークシートや問題集を活用した主体的な学習態度の育成を促す。 ③	B		
	科学的なものの見方や考え方の育成	日常生活に関連する観察や実験に取り組むことで、科学に対する興味・関心を引き出しながら、科学的な考え方を育成し、主体的に探究する態度と能力を身に付けさせる。 ③	B		
保 健 体 育	基礎体力の向上	運動の特性を生かした授業展開を工夫し、運動量の確保に努める。 ③⑧	B	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナの影響もあり、生徒の体力は年々減少している。 運動量の確保が必要である。 コミュニケーションをうまくとれない生徒が増加しチーム活動が難しくなっている。 授業内容を見直す必要がある。
		競技及び運動の特性を理解し、自ら課題を見つけ、課題解決に向けて努力させる。 ③⑧	B		
	運動の楽しさを味わう授業展開	簡易ルールを作り、仲間と協力し、相談しながら主体的に活動できるようにする。 ③	B		
		ICT等の活用を含めて生徒の実態に応じた授業展開を工夫する。 ②③	A		
	健康と安全についての理解	健康の保持増進のために生活習慣の見直しや改善を図ることができるようになる。 ③⑧	A		
自他の安全に留意しながら運動できるようにする。 ②⑩		A			
音 楽	音楽の特質を理解し、表現する喜びの体験	生徒個々が能力を発揮し、主体的な活動ができるようにICT等の活用を含めて適切な助言を与える。 ②③	B	B	ICT機器を利用し、生徒自身が積極的に自己表現をできる授業を展開する。
		具体的な目標を持たせ、自己を表現すること、創造的な鑑賞をすることの喜びを与える。 ②③	A		
美 術	造形の基礎を理解し、表現する喜びの体験	生徒個々が能力を発揮し、主体的な活動ができるようにICT等の活用を含めて適切な助言を与える。 ②③	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとの具体的な目標を設ける。出席停止者や欠席者へのフォローの充実。
		具体的な目標を持たせ、達成感を味わう喜びを与える。 ②③	B		

別紙様式 2 (高)

英語	基礎学力の向上	小テストを実施して学び直しをさせながら、ICT等の活用を含めて基本的な知識を身につけさせる。①②	B	B	・生徒がICT機器を活用し、自己の意見を発信する授業展開を図る。 ・基礎学力を定着させ、英語がわかる喜びを実感できる授業を実践する。
		少人数による主体的・対話的で深い学びを行い、その成果と課題を明確にする。②③	B		
		ワークブック等をこまめに点検して、学習内容の定着に努める。②③	A		
	家庭学習習慣の定着	定期的にノート等を点検し、家庭学習の習慣を身につけさせる。③	B		
	英語がわかる喜びを実感できる授業の実施	ReadingとListeningに力を入れ、英語を読み、聴いて理解する喜びを体験させる。③	B		
ALTを効率よく活用し、ネイティブスピーカーとのコミュニケーションに親しませる。③		A			
家庭	基礎的、基本的な知識・技術の定着	学びの振り返りや実技テストを実施することで、基本的な知識・技術の定着に努める。③	B	B	生徒一人一人のタブレットを活用できる授業の工夫を図ることで、もっと動きのある授業展開に努めたい。
		ワークシートの点検、振り返りシートを活用することで、学習意欲の継続に努める。③	A		
	わかりやすい授業の展開	生徒の実態を把握しICT等の活用を含めて授業内容を精選することに努める。①②	A		
		実験・実習など体験的な活動を充実することに努める。②③	B		
情報	生徒の能力、思考に応じた授業構築、テーマの工夫とアクティブラーニングの推進	生徒理解に努め、授業の意義や取り組むべき理由の明確化とその伝達の工夫を図る。②③	A	A	今年度は各課題に合わせてグループワークやICT活用を効果的に盛り込むことができ、生徒同士で教え合うなどの能動的に学びに向かう姿勢も多くみられた。次年度は家庭学習の強化を図るなど、更なる高効率化を目指したい。
		授業において生徒にとって身近な題材を準備することで、その題材から生徒が自ら課題を発見し、その解決法を思考・判断・表現することができるように努める。②③	A		
		グループワークを通して、コミュニケーション力の育成と課題解決力の育成に努める。②③	A		
	社会・キャリアを意識した情報モラル・マナーの向上と情報活用能力の育成	様々なメディアを活用し、具体的なイメージを持たせた授業展開を心掛け、社会の一員として必要な能力の定着・育成に努める。②③⑩	A		
		外部検定や情報システムなどを活用し、基本的なコンピュータスキルの定着を図る。②③⑥	A		
	授業時間の確保	出張・年休における授業振替を励行し、各教科・学年の協力で自習をなくすことに努める。①	A	A	・観点別評価の本格実施初年度であり、各教科とも意識した指導計画の作成に取り組むことができた。相互授業参観では教科にとらわれずグループを編成し、グループ内でお互いに授業を観察することを導入し、推進活性化できた。
		行事を調整し、授業時間の偏りを減らす。①	B		
	学習指導の充実	年間指導計画書の活用と観点別学習状況の成績評価の方法を継続して検討する。①	A		
		課外等の実施で、成績上位層の育成と成績不振者への対応を図る。②	B		
		相互授業参観を実施し、指導方法の工夫改善を図る。②	A		
	特色ある教育課程の検討	新学習指導要領への対応及び授業科目と類型の在り方を継続して検討する。①	B		
	欠席・遅刻・早退者の実態把握	遅刻カードの活用を図り、実態を月別の統計で調べる。⑧	B		

別紙様式 2 (高)

教 務		保護者との連絡を密にするとともに、通知文等を通じ家庭との連携を図る。	⑦	B	成績上位層へのアプローチについて進路部との協働で対処が必要である。 ・学校公開についてより多くの機会を設けたい。 ・生徒が利用しやすい環境の整備と、利用促進へ向けての意識づけを目標に活発に活動できた。継続していきたい。 ・校内通信環境の整備が急務である。計画的に整備を進めたい。校務支援システムの利用、授業の ICT 活用について滞りなく進めることができた。個々のスキルによる利用差をより無くするために継続支援を心がけたい。
	開かれた学校を目指す 地域への情報発信と広報活動	学校案内作成・中学生対象学校説明会・中学校訪問等を通して、本校の特色や活動状況を積極的に発信していく。	⑩	B	
		学校公開等で地域との連携・交流を深める。	⑮⑯	B	
	生徒の図書館利用の推進	学習活動を適切に援助するため、資料及び情報を収集し、その活用を図る。	③	A	
		図書館の美化や図書の配置・整備を行い、利用しやすい環境を整える。	③	A	
		図書館だよりを定期的に発行し、コンピュータによる資料検索のサービスを行う。	③	A	
	視聴覚室や ICT 環境の整備拡充及び ICT 活用の支援	教室や PC 室等で ICT を活用した授業が行えるよう環境を整える。また、集会等で交通安全やマナー、携帯電話の安全な利用法などの講習会が実施できるよう支援する。	⑩	A	
		職員室、PC 室、教室等のネットワーク・周辺機器等を管理し、快適に利用できるように管理する。	①	B	
	情報セキュリティの向上	校務支援システムのスムーズな運営に努める。	⑩	B	
		トラブルの未然防止につとめ、不測の事態の発生時には関係機関や職員と迅速に連携し対応する。	⑩	A	
研修等を通じ、セキュリティ意識の向上を図る。		⑩	A		
特別活動	HR 活動や学校行事等の集団生活をとおして、調和のとれた発達と個性の伸長	クラス毎に LHR 計画を作成し、HR 活動の円滑な実施を図る。	⑪	B	A ・クラスマッチ、コスモス祭等の行事は生徒の意見を取り入れながら実施することができた。 ・三校合同あいさつ運動は登校時間に差があるため各校と調整のうえ、計画し実施したい。
		HR や生徒会活動・クラスマッチ等の行事に積極的に参加できるようにする。	⑪	A	
	文化的な行事としてすべての文化部がコスモス祭に参加する。また、クラス毎の参加を奨励し内容の充実を図る。	⑪	A		
	キャリアパスポートを活用し、キャリアプランニング能力を自ら成長させる。	⑭	A		
よりよい人としての在り方、生き方についての自覚の深長、心の豊かな人間性の育成	東海南中学校・中丸小学校との三校合同あいさつ運動に生徒会と各部活動が参加し、マナーアップ運動を推進する。また、ボランティア活動を奨励し、地域の活動に貢献する。	⑬	B		
	部活動の 3 年間継続を奨励する。	⑫	B		
明るく、安全な学校環境の確保	日常生活指導の徹底（内規の読み合わせ、時宜に応じての職員への啓発、毎時間の服装指導）。	⑧	B	・生徒指導部ではない先生方との協力体制の構築 ・学年ごとの格差を生じさせ	
	全職員での校外指導の実施（登校指導、下校指導）。	⑦⑧	A		
	交通安全指導（生徒指導部・生徒による自転車点検と交通安全立哨）。	⑦⑧	B		

別紙様式2 (高)

生徒指導		LHR・総合的な探究の時間を利用した指導（喫煙防止、公共マナー、アルコールの害、交通安全、薬物乱用防止、情報安全教育、いじめ防止）。 ⑧⑩	A	B	ないようにするための工夫を考える。 ・コロナウィルス感染拡大のため、行事や会合が制限される事が予想されるが、引き続き目標に沿った方策を講じる。
	生徒の規範意識の高揚	日常生活指導の徹底（内規の読み合わせ、時宜に応じた職員への啓発、毎時間の服装指導）。⑧	C		
		全職員での校外指導の実施（登校指導、下校指導）。 ⑦⑧	A		
		交通安全指導（生徒指導部・生徒による自転車点検と交通安全登校指導等）。 ⑦⑧	A		
		LHR・総合的な探究の時間を利用した指導（喫煙防止、公共マナー、アルコールの害、交通安全、薬物乱用防止、情報安全教育、いじめ防止）。 ⑧⑩	B		
	保護者、地域社会、関係諸機関との協力関係の構築	地域社会、関係諸機関との協力。 ⑦⑮	B		
		本校の生徒指導諸事業等の保護者へ周知と協力依頼（PTAによる登校・下校指導、列車添乗指導等）。 ⑦	B		
生徒指導に対する教職員の共通認識の構築	生徒指導業務、諸手続きの見直し。 ⑧	B			
	校長・教頭・教務主任・生徒指導部長・学年主任・特別支援教育コーディネーター連絡会の実施。 ⑧	B			
進路指導	進路情報を積極的に提供し、進路学習の向上	進路相談室等の資料を整理し、生徒・教職員が利用しやすい環境を整備する。 ④	A	B	・生徒の多様な進路実現に向け、3年間を見通したキャリア教育を計画・実施するため、各学年との連携をより一層深める。 ・スタディサプリを活用した学び直しの方策を立てる。
		各学年の発意による進路関連事業を計画実施し、生徒間の進路意識の向上を図る。 ①④⑥	B		
		保護者向けの進路説明会等を実施し、家庭との連携を密にして、希望進路の実現に努める。 ④	C		
		「進路だより」を定期的に発行し、進路の情報を積極的に提供する。 ④⑥⑯	B		
	計画的な学習指導を推進し、進路決定能力の育成	インターンシップ等を活用して、正しい職業観の育成を図る。 ⑤	C		
		進学課外の充実を図り、模擬試験等を活用することにより綿密な進路指導を行い、進学希望の達成を目指す。 ⑥	C		
		就職課外・面接指導等を実施し、ミスマッチのない就職内定率の向上を図る。 ⑥	B		
キャリアパスポートを活用し、生徒の進路実現を図る。 ⑭		B			
健康への意識を高め、よりよい行動を選択できる力の育成	身体測定・各種検診の実施を通し、自分の健康に関心を持たせるようにする。 ⑦	A	A	・新型コロナ感染予防・生徒の健康・安全への意識を高める働きかけを行う。 ・生活環境の整備と充実を図	
	保健指導・講演会などを実施し、健康についてのよりよい情報を提供する。 ⑦	A			
	心身不調者の早期把握と効果的な対応	保健調査・健康相談を実施し、心身に不調を抱える生徒を早期に把握し対応する。 ⑦			A
		スクールカウンセラー・関係職員と連携し、カウンセリングを通して生徒を支援する。 ⑦			A

別紙様式 2 (高)

保健厚生	学校生活に適した環境の整備	環境衛生検査・安全点検等を実施し結果をもとに環境の改善を図る。	⑦	A	る。 ・引き続きカウンセリング等を通じて生徒の心のケアを図る。
		校内清掃を計画・実施し、必要な用具を整備する。	⑦	B	
	防災意識の高揚と危機意識の育成	危険を未然に防ぐための注意を喚起し心構えを養う。	⑦	A	
		地震・火災・原子力対応の避難訓練を実施し、非常時に適切な行動がとれるようにする。	⑦	C	
	生徒の福利厚生の充実	奨学金の呼びかけと手続きを確実に行う。	⑦	A	
購買が滞りなく実施できるよう連絡・調整・管理を行う。		⑦	A		
渉 外	P T A活動の活性化と充実	P T A総会時に、感染対策を十分にし、内容等も吟味して、P T A 会員に安全、安心して参加していただけるよう努める。	⑦	A	B ・P T A 総会は、完成対策を十分にし、内容も吟味し、P T A 会員に安心して参加してもらうことができた。来年度は、参加者数をより増やしたい。 ・P T A 関連行事について、必要があれば、見直しをし、活性化と充実を図りたい。
		P T A役員への連絡を出来るだけ早く行い、役員会や各種委員会への参加者数をしっかりと把握し、スムーズな役員会や各種委員会の運営に努める。	⑦	B	
		P T A関連行事の充実を図る。	⑦	B	
第 1 学年	基本的な生活習慣の確立	無断の欠席・遅刻・早退をしないように家庭との連絡を大切にする。	⑦⑧	B	B ①保護者アンケートから、他学年と比べて授業のわかりやすさに関して課題が残る。 ②生徒の学習意欲を高められていない。学習補助教材のスタディーサプリの効果的な活用方法を模索していきたい。
		制服を正しく着用させ、頭髪などの身だしなみに清潔感を持たせる。	⑦⑧	B	
		清掃を徹底させて校内美化に努め、規範意識の向上を促す。	⑦⑨⑩	B	
		スマートフォンの使用マナーや言葉遣いなど、社会常識に則った生活を心がけさせる。	⑦⑨⑩	B	
	基礎学力の習得と向上	正しい授業態度を身につけさせ、板書事項や教授事項をノートに書くことを徹底させる。	②③⑧	B	
		家庭学習及び自主的な学習の習慣を身につけさせる。	③⑦	C	
		各種検定試験受験や、課外学習への参加を促す。	②③④	C	
	「総合的な探究の時間」の授業の充実	ICT の活用（スタディーサプリ等）を通じて生徒の学習意欲が高まるよう促す。	②③	B	
		探究の見方・考え方を働かせ、地域や社会と関わる活動を通して、自己のあり方生き方を考えさせる。	⑦⑨⑮	B	
		協働的な活動を通して、課題の発見と解決ができるよう資質・能力を育成する。	④⑨	B	

別紙様式 2 (高)

第 2 学年	基本的な生活習慣の確立・生活指導の徹底	基本的な生活習慣の育成を図る。家庭との密な連絡を心がけ、皆勤等を奨励しながら、TPOを意識した態度や提出期限を厳守できる姿勢を育む。 ⑦⑨⑩	B	B	身だしなみをはじめとする、規則を守る指導に、声かけの強化など更に力を入れる必要がある。 進路を意識させ、学習への動機付け、学習目的を持たせる指導を学年集会やホームルームを通じて行う。
		身だしなみ、言葉遣い、スマホ等マナーの指導を徹底し、規律を意識した生活を心がけさせる。 ⑧⑨⑩	C		
		教室、廊下等校内清掃を徹底させ、落ち着いた生活環境を整える。 ⑧⑩	B		
		LHR や総合的な探究の時間をとおして思いやりや協調性を育み、健全なコミュニケーション能力を身につけさせる。 ⑪⑬	B		
	基礎学力の向上・自主的な学習態度の涵養	次時の授業準備を徹底させ、授業を受ける態度の充実を図り、基礎学力の向上に努める。 ②③⑥	B		
		進学課外や校外模試などの積極的な受講・受験を促すなど、目標をもった学習態度の涵養に努める。 ①②④⑤⑥	C		
		検定試験に挑戦することなどをとおして、自主的な学習習慣の育成に努める。 ⑤	B		
進路に関する指導の充実	進路講話やホームルーム活動をとおして、生徒一人ひとりの適性・能力に応じた進路指導の徹底を図る。 ④⑤⑥	B			
	部活動や生徒会活動、修学旅行やインターンシップの体験をとおして、自己理解を図りながら、自己の適性を発見し、進路意識の育成を図る。 ⑪⑫⑬⑭	B			
第 3 学年	基本的な生活習慣の確立と生活指導の徹底	言葉遣い、礼儀作法、身だしなみの指導を徹底し、教員間及び家庭と協力し実施する。 ⑦⑧	B	B	・進路決定後の、生活習慣の乱れ。 ・TPOに応じた言葉遣いや行動の習得。
		基本的な生活習慣の完成を図り、自律的態度を身につけさせる。 ⑦⑧	B		
		授業や日常生活を通し、コミュニケーション能力や適応力を身につけさせる。 ⑥	B		
	生徒一人一人の進路実現への継続的な学習支援	進路目標を明確にし、自主的な学習習慣と家庭学習の充実に努める。 ①④	B	B	・進路選択に向けての学年の方針、計画のさらなる準備と徹底。 ・早期の総探の外部団体との交渉。
		個々に応じた進路相談を徹底し、進路に応じた課外や模試などを実施し、学力向上に努める。 ③	A		
		進路決定後も学習意欲を継続させ、最後まで学ぶ態度を育てる。 ②③	C		
	総合的な探究の時間の充実	進路別学習を実施し、必要な学力や面接の練習をとおし、希望進路の実現を図る。 ⑥	A	B	
進学就職セミナーなどの講座をとおし、社会人としてのスキルアップを図る。 ⑬⑮		B			

※ 評価規準： A：大変よく達成できた B：よく達成できた C：普通である D：やや不十分 E：不十分